

平山蘆江年譜稿（補遺）

平山城児

表題の原稿を、本誌第十二号と第十三号とに掲載させていただいた。不完全ながら、これをもつていちおう完結したものと私は考えていた。ところが、その後、藤井淑禎教授を介して、本学大学院に在籍中の影山亮君から蘆江関係の資料を頂戴した。藤井教授からの御助言もあり、同君からの資料を発表することにした。以下の事項はそのような事情から派生したものである。

*

明治四十一年（一九〇八）

七月 「支那服の流行」（『流行』白木屋呉服洋服店）

大正六年（一九一七）

四月 「小説 東京見物」（『農事新報』）

大正七年（一九一八）

十二月 「小説 豚の夢」（『農事新報』）

大正八年（一九一九）

一月 「小説 新肥料」（『農事新報』）

大正十年（一九二一）

十一月 「紅燈の影に於ける恋」（『小説俱樂部』）

大正十五年・昭和元年（一九二六）

三月 アンケート「私の妻（又は夫）のどこを見込んで結婚したか」（婦人倶楽部）

昭和二年（一九二七）

十月 「音無しの宮」（『文芸春秋』）

昭和五年（一九三〇）

十一月 「お大事に」（『文芸春秋』）

昭和六年（一九三一）

七月 「柳橋夜話 桐の雨」 (『文芸春秋』)

昭和七年 (一九三二)

八月 「大海賊の頭目を慄ひあがらせた日本男児の膽つ玉」 (『少年倶楽部』) *日露戦争中の岡田源吉の実話。

十一月 「痛快戦場物語 萬年二等兵」 (『少年倶楽部』)

昭和八年 (一九三三)

一月 「相うつ白刃」 (『少女倶楽部』)

二月 「コサツク騎兵の大逆襲」 (『少年倶楽部』) *日露戦争

中の江阪芳五郎の実話。

八月 「納涼・花火・人情咄」 (『文芸春秋』)

昭和十年 (一九三五)

一月 「名・相・干支」 (『随筆趣味』)

四月 「玄海の月 渤海の月」 (『海』) *蘆江が初めて満洲(現、

東北)へ渡ったのが日本海海戦の当日で、船は「プロメシユ

ウス」という貨物船であったことが記されている。

昭和十四年 (一九三九)

七月 「女人世話」 (『大陸』)

昭和二十四年 (一九四九)

二月 アンケート「政府に国会に政党内」 (『月刊読売』)

昭和二十六年 (一九五一)

八月 「他山の石」 (『新都市』)

昭和二十七年 (一九五二)

五月 「張見世の吉原遊女」 (『夫婦生活』) *「次号完結」とある。

十二月 「子供の名前のつけ方」 (『丸』)

十二月 アンケート「(一)お正月のお雑煮は、どのようなのお作りになりますか？(二)お煮しめなどで、特に毎年お作りになるものがありましたら、それをお教え下さい。」 (『あま・から』)

(ひらやまじょうじ 本学名誉教授)

【付記】 本年譜は平山城児先生の手書きの原稿を、本学兼任講師の石橋剛氏に依頼して、ワープロ原稿化のうえ版下を作成してもらったものである。
(藤井淑禎)